

アーケードをもつ町屋

既存町家の改修モデル計画。
かつて産業が栄えていたころの津島市の中心地であった本町筋は、人々が道を賑やかに行き交い、商店や茶室を備えていた町家に、多くの人が頻りに出入し、縁側茶と呼ばれる風習があったほど気軽に人を招いていた。しかし、人々の生活と密接な関係にあった町屋も、産業の衰退より出入りする人は減っていった。本町筋沿いに現存する町家の多くは、平面が奥行き方向に深いことによる採光、通風などの問題から現在の生活に合わなくなっており、津島の歴史を表す重要なものとして認識されつつ、建て替えや空き家化も進んできている。町家での生活を観察してみると、大きな平面のなかのほとんどは物置としてしか機能しておらず、生活に必要なスペースは延床面積の半分にも満たないような使われ方だった。また、通り土間をあげると、道路からでは認識することができなかった開放的な中庭が存在していた。住宅としてのスペースを中庭側の半分に集約する。道路側の半分は吹き抜けの道路側から気軽に入ってくることのできるアーケードのような場所とする。住宅部は、背面は庭、前面はアーケードに挟まれた風通しの良い明るい空間となり、アーケードは子供の遊び場やお祭りのときの屋台広場などコミュニティの起点となる。周辺の人々が日常的に町家を生活の場として使うことができるようにすることで、歴史ある町屋を継承していくきっかけになっていけばと考えている。

01. 津島の都市的特徴 - 道と生活の関係 -



生活と道路の密接な関係
自然堤防沿いに住居が立ち並んで行った経緯によって入り組んだ形となっている区画内には道路幅員が3.5m以下で車道がすれ違うことのできない細い道路が多く存在する。現地を歩いているとその道路を公園のように使うキャッチボールをする少年達や、井戸端会議をする主婦の姿を見ることができ、生活と道路が密接な関係にあると感じた。

- 一車線 (幅員3.4m以上)
- 一車線 (幅員3.5m以上)
- 二車線
- 計画対象町屋

02. 本町筋に建つ大きな町屋




歩行者のための本町筋
現在は南北へ通り抜けるための交通量の多い本町筋であるが、事業中である名古屋津島線が開通することで、本町筋の交通量は軽減することが考えられる。本町筋は歩行者専用の道とすることで、道が広場や公園のように使える場所とする。

町屋の特徴
本町筋沿いに建つ町屋の特徴として以下のことがあげられる。
1. 大きな建築面積
2. 細長い敷地形状
3. 高い棟の位置
4. お年寄りが夫婦ふたりで住む

これらの特徴は、奥行きが深い平面形状のため室内への採光・通風が確保しにくい。
・大きな床面積のほとんどは使用されていない。
・建物奥に中庭を持つといった状況を生み出している。

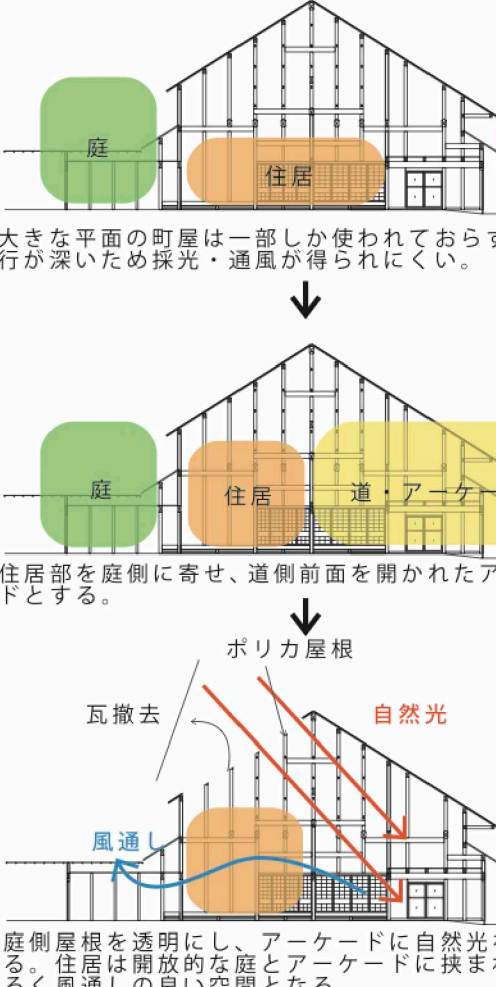
03. 高木サイクル



高木サイクル
延床面積 319㎡
最高高さ 10m
住人 夫婦二人

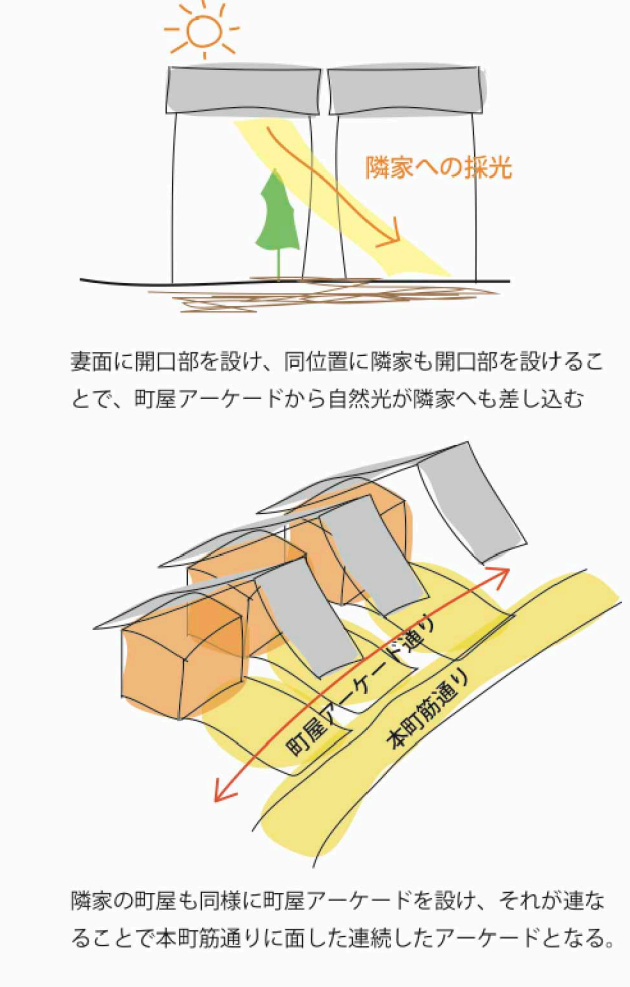
改修モデル対象として、本町一丁目建つ「高木サイクル」を選定する。当町屋も前述の内容にもれず、夫婦二人で住むには大きく、奥行き長い平面により採光・通風が得られ、建物奥に中庭を持つ町屋であった。

04. 改修モデルダイアグラム



大きな平面の町屋は一部しか使われておらず、奥行きが深いため採光・通風が得られにくい。
→
表面に開口部を設け、同じ位置に隣家も開口部を設けることで、町屋アーケードから自然光が隣家へ差し込む。
→
住居部を庭側に寄せ、道側前面を開けたアーケードとする。
→
ポリカ屋根
瓦撤去
自然光
風通し
→
底層屋根を透明にし、アーケードに自然光を入れる住居は開放的な意となる。アーケードに挟まれた明るい風通しの良い空間となる。

05. 町屋アーケードによる周辺への効果



隣家への採光
→
隣家の町屋も同様に町屋アーケードを設け、それが連なることで本町筋通りにした連続したアーケードとなる。



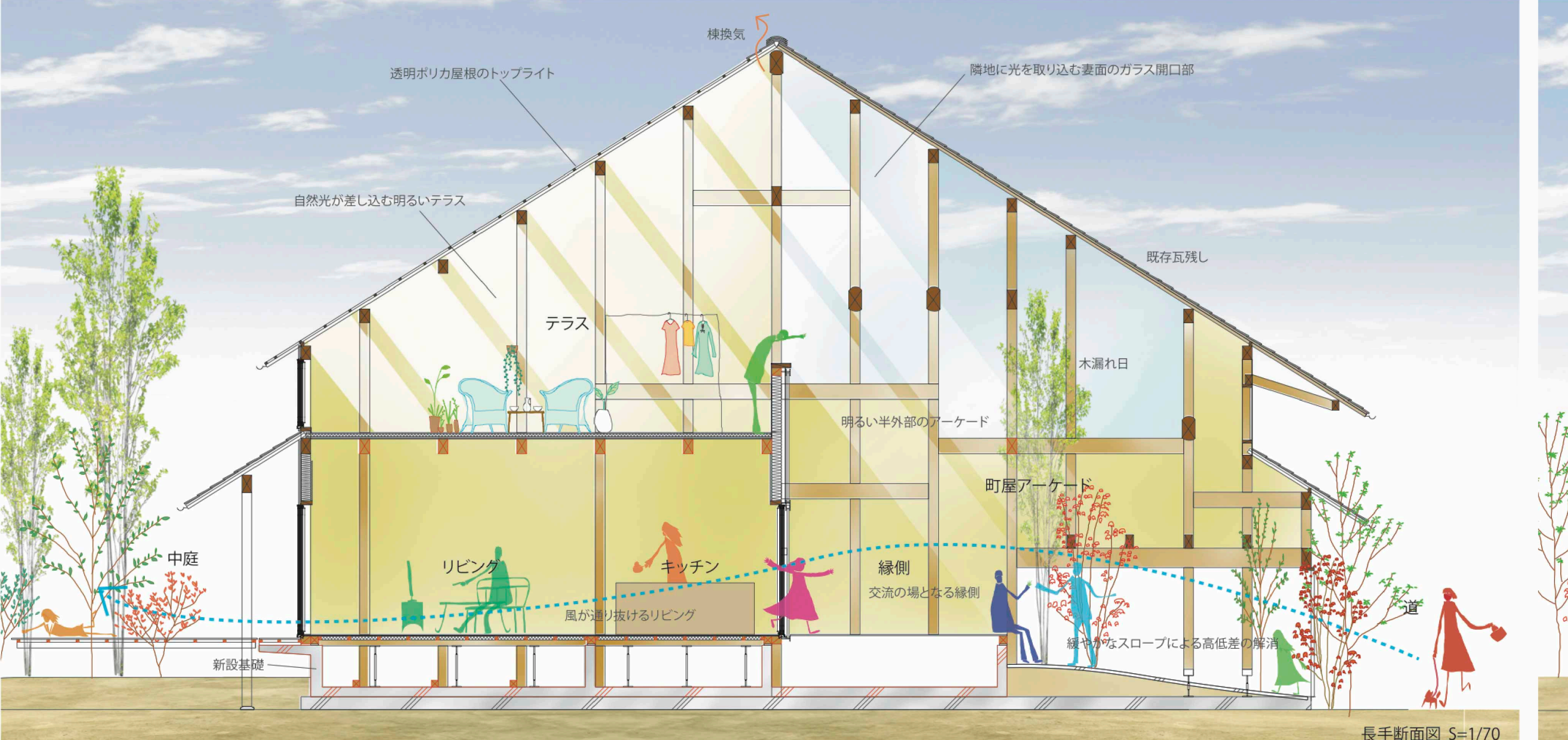

1階平面図 S=1/150
2階平面図 S=1/150

1階平面図に示される部屋: 居室、中庭、縁側、足洗い場、浴室、脱衣室、キッチン、ダイニング、住居部、玄関、テラス、吹抜けアーケード部、道路。

■防炎・耐震を考慮した構造
《浸水対策のための基礎補強》
本町筋はハザードマップによると0.5m~1.0mの浸水域となっています。立ち上がりがGL+1000mmの基礎を土台を新設し、既存躯体と新設土台をコーチスクリューで接合することで、基礎補強+洪水対策とします。

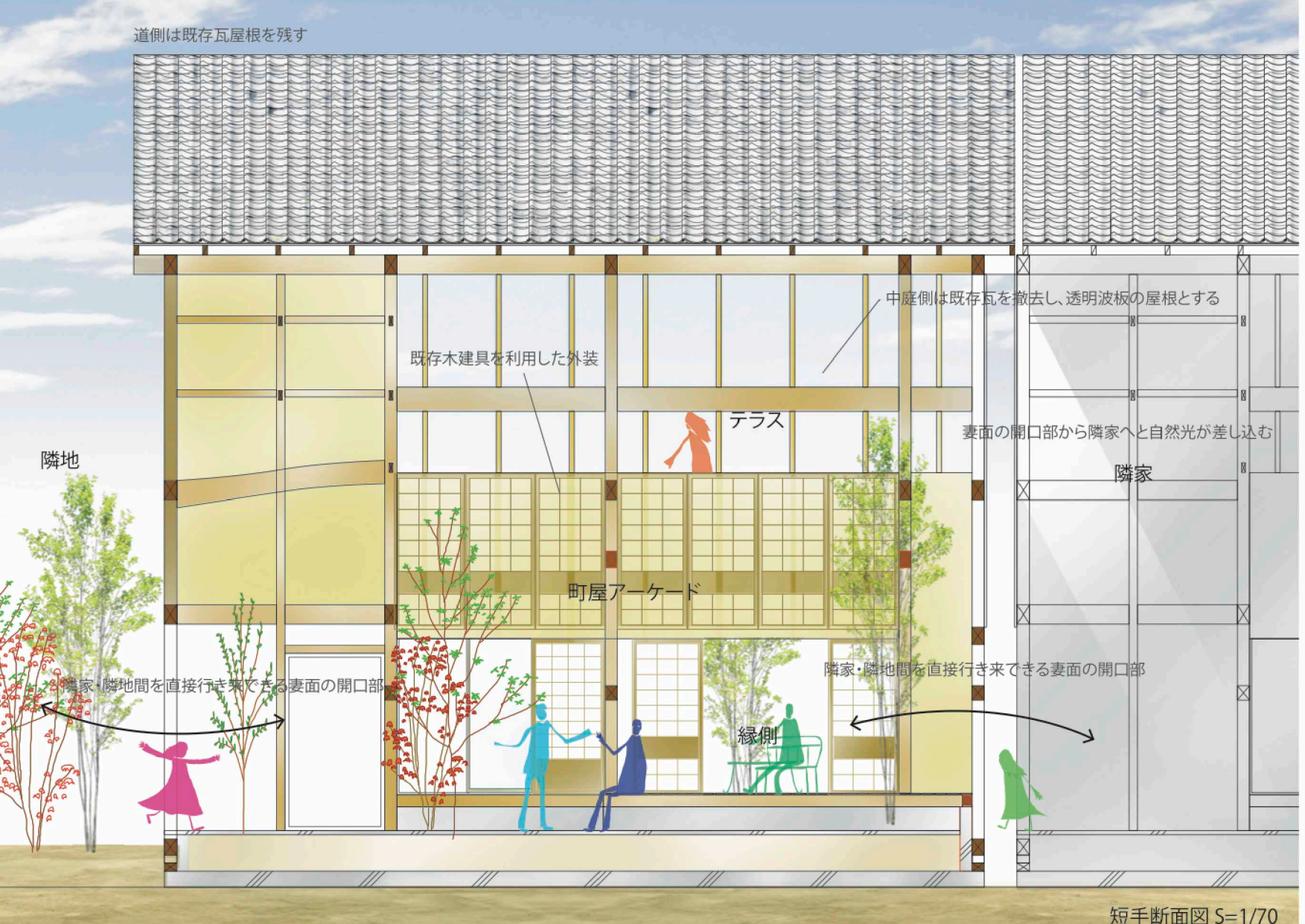
■次世代への継承
二世帯住宅へ改築できる余裕を持った計画とすることで、町屋を次世代へと受け継いでいくことができます。
現在: 戸建て住宅 (夫婦二人暮らし)
将来: 二世帯住宅 (夫婦二人 + 息子家族)

■既存建具の外装利用
住宅部の町屋アーケード側外装は既存の木建具を利用したファサードとします。



長手断面図 S=1/70

構造要素: 縁側、透明ポリカ屋根のトップライト、隣地に光を取り込む裏面のガラス開口部、既存瓦残し、木漏れ日、町屋アーケード、リビング、キッチン、中庭、新設基礎、緑側、風が通り抜けるリビング、縁側、スロープによる高低差の解消。



短手断面図 S=1/70

構造要素: 通風は既存瓦屋根を残す、隣地、既存木建具を利用した外装、透明波板の屋根とする、裏面の開口部から隣家へ自然光が差し込む、隣家、町屋アーケード、緑側、隣家、隣地間を直接行き来できる裏面の開口部、隣家、隣地間を直接行き来できる裏面の開口部。